

第551回 テレビ岩手 放送番組審議会

1. 日 時 2019年4月16日(火) 午後0時45分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 7名

委員長	三浦 茂樹
副委員長	恒川 かおり
委員	佐藤 健志
委員	高橋 司
委員	渡辺 理雄
委員	前田 千香子
委員	石田 亨

欠席委員 2名

委員	大橋 綾子
委員	加藤 千晶

社側出席者	檜崎 憲二 (取締役会長)
	榎野 信治 (代表取締役社長)
	青山 尚之 (専務取締役営業局長)
	小岩 祥子 (報道制作局担当局長)
	小形 恵一 (報道制作局報道部長)

事務局	畑山 篤 (取締役編成局長 兼 放送番組審議会事務局長)
	平山 亜希子 (編成局編成業務部副部長)

4. 議 題

1. 3/23(土) 10:30～11:25 報道特別番組 生中継 三陸鉄道リアス線開通 第一部
11:35～12:15 報道特別番組 生中継 三陸鉄道リアス線開通 第二部

2. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・視聴者からのご意見
- ・2018年度10月～3月第3週 種別放送時間合計

6. 意 見

委員側意見

○二部構成で前半の番組の方では、復旧して移管する経緯や課題を入れ、後半はまさに当日の様子がリアルタイムという事で、開業した当日の番組としては、バランスも良くて良かったのではないかと。

○開業当日、山田町が盛り上がっていたので、山田町の様子が番組内で見たかった。

○今後の要望として、何故こういう移管をして復旧に至ったかや、経営の実態や見通し、道路との関係など、総合的に取り上げる番組をぜひやっていただければと思っている。

○利用者の声、特に高校生が興味深く面白かった。高校生がどうしたら三鉄に乗るのかという所を掘り下げる事が必要で、利用するか迷っている方がたくさんいることをあらためて知った。

○空撮が良く三鉄を通して沿線の復興の状況やその市街地の形成がどうなっているのかという事が全部理解できた。

○へり空撮のお陰で列車の位置がよくわかって、そのまま駅の歓迎の模様に移るという具合で、流れもあり面白かった。大槌の盛り上がりも、都会の高校生が来て、ひょっこりひょうたん島の歌を繰り返し歌っていたが、あのような盛り上がりを見ると色々あるけれど頑張っているという気持ちになり三鉄の経営もうまくいくといいなと明るい気持ちで終わった。

○コマーシャルに入る直前のVTRで、社員の方々がパネルを持って、これからこうやっていきたいという話をしていたので、これから社員一丸となってやっていくのだという感覚が出ていて、作りとしてよかった。

○大槌駅のひょっこりひょうたん島のキャラクターが出てきたが、なぜ「ドン・ガバチヨ」と名前を言わないのが不思議だった。言ってはダメなのかと疑問に思った。

○当日の開業の様子を生放送するというのが大事な事だと思っていたが、多くの方々が開業を喜ぶ姿とか、にぎやかな雰囲気がリアルタイムに伝わってきたのは良かった。

○釜石駅でのテープカットで記者の方の後頭部がよく映り、ポジション取りは何とかならなかったのかと思っている。

○一部の最後にキャスターがおっしゃったコメントが、凄く印象に残り素晴らしいと思った。「鉄道も道路もどちらも大切なインフラだ。どちらがなくなっても駄目だ。強い部分を生かして何とか有効に活用していく。」この番組のポイントであろうし、我々住んでいる人間や、県内にいる人間も忘れてはいけない事なのではないかと思った。

局側意見

○生の感動を凝縮できる範囲を選択したが、山田町、宮古市での到着シーンも生中継で出来たらそれがベストだった。

○カメラのポジション取りの話で、2月の末に一度三陸鉄道に集まって、マスコミ等々でも相談してみたが、結果ああいう風になってしまった。生中継だったが、スチールカメラさんも瞬間を撮りたいという事で自然に立ってしまってあのようになった。弊社でも三脚も脚立も持って行って、高い所から撮る事もやったが、あれが限界。

○大槌のキャラクター「ドン・ガバチョ」は放送で言っても良かったが、担当のアナウンサーが言わなかった。

○継続して検証の番組を作ってほしいという要望があったが、それはやっていきたい。

6. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合の公表の内容、方法及び年月日

1. 公表の方法

- ① 自社放送 4月23日(火) 11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」
- ② テレビ岩手本社での備え置き
- ③ 読売新聞への掲載(別添)
- ④ 自社HPでの掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>